

## 口永良部島の火山活動解説資料(平成20年8月)

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

8月は特段の変化もなく、火山性地震、微動ともに少なく経過しました。

なお、9月4日(期間外)10時00分に、火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)を発表し、噴火警戒レベルを1(平常)から2(火口周辺規制)に引き上げました。

口永良部島では火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。火口から1km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

### 活動概況

#### ・地震、微動の発生状況(図1、図2)

8月は火山性地震、微動とも少ない状態で経過しました。8月の月回数は148回でした。

なお、9月2日以降振幅のやや大きな地震が増加し、4日はさらに増加しました。9月に入って8日までに105回発生しています。震源は、主に新岳火口直下のごく浅い領域に分布しています。

また、継続時間の短い火山性微動が、8月は4回発生しました。9月は8日までに1回発生しています。

#### ・噴気など表面現象の状況

遠望カメラ(新岳火口の北西約3km)の観測によると、<sup>しんだけ</sup>新岳・<sup>ふるだけ</sup>古岳の噴気に特段の変化はありません。

#### ・地殻変動(図4、図5)

GPS連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は観測されていません。

---

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータの他、国土地理院、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しました(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成20年9月分)は平成20年10月7日に発表予定です。

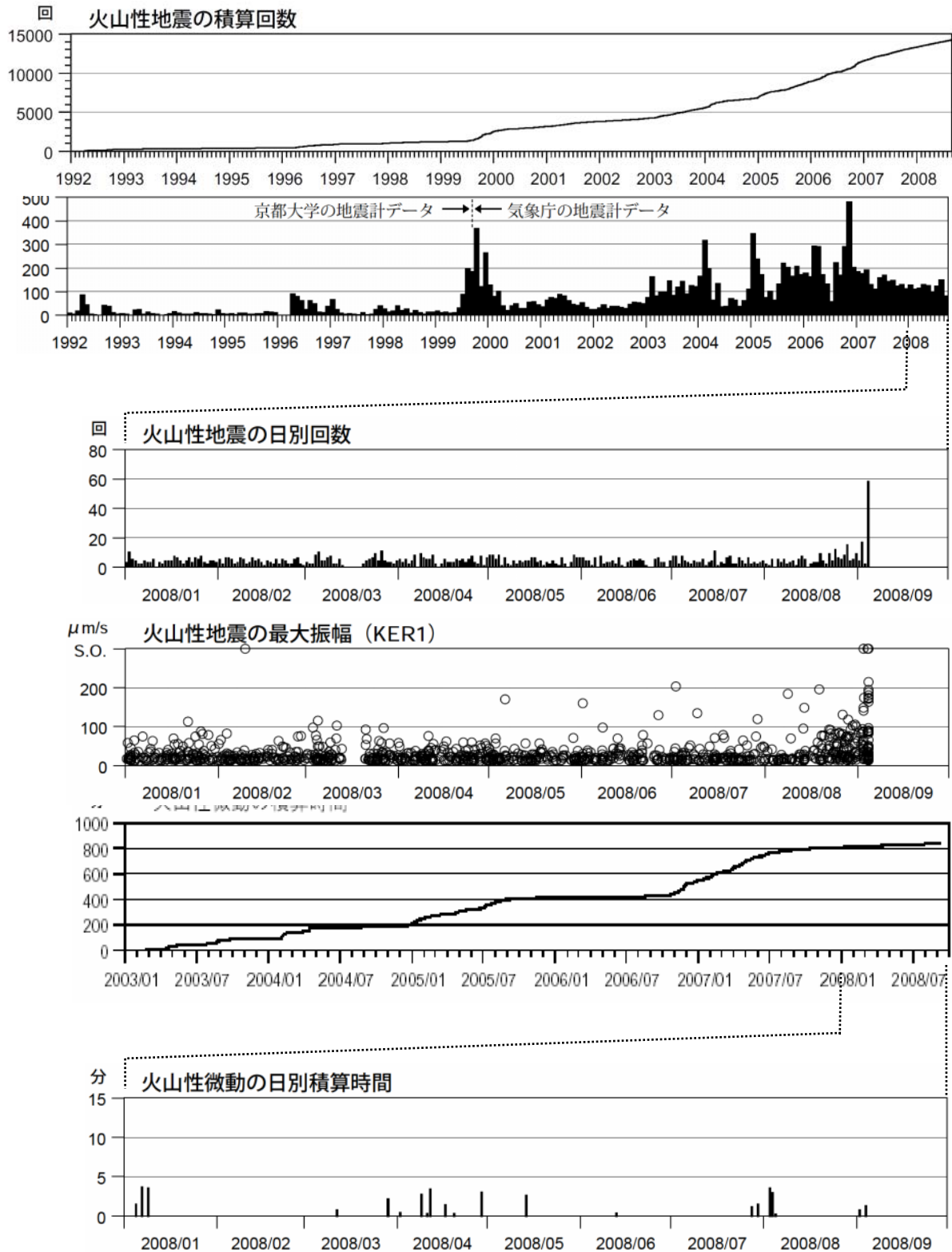


図 1 口永良部島 火山活動経過図(1992 年 1 月 1 日～2008 年 9 月 8 日)  
 ・ 9 月 2 日以降、振幅のやや大きな火山性地震が増加しています。

\* 1992 年 1 月 1 日～1999 年 9 月 12 日及び 2005 年 12 月 15～28 日間は京都大学のデータを使用しました。  
 \* 2002 年 12 月 22 日～2003 年 1 月 11 日まで地震計 KER 1 の機器障害のため欠測しました。また、2005 年 7 月 9 日～9 月 18 日、2005 年 11 月 5 日～12 月 14 日までは地震計 KER 1 の機器障害のため、地震計 KER 3 で回数を計数しました。2008 年 3 月 13 日～3 月 20 日までは地震計 KER 1 の機器障害のため欠測しました。

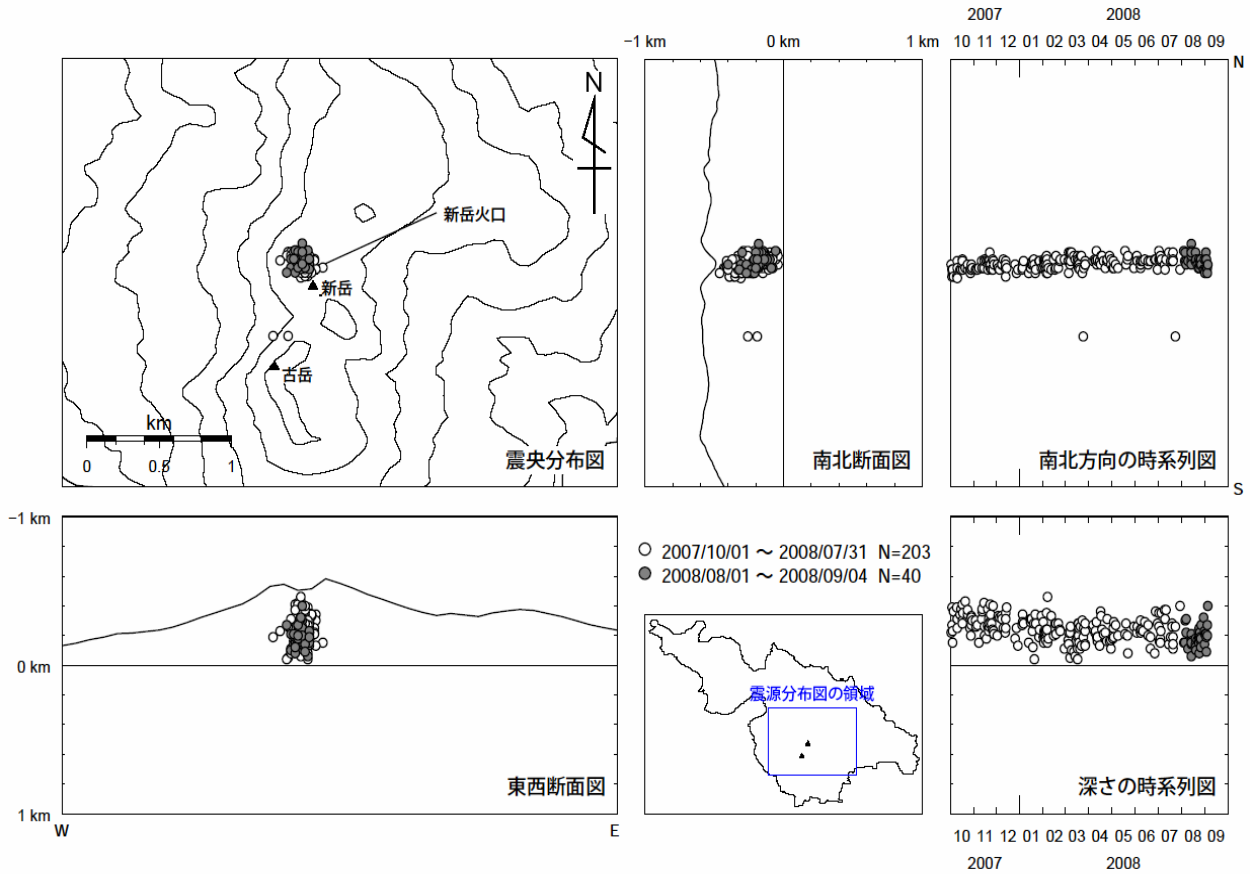


図2 口永良部島 震源分布図(2007年10月~2008年9月4日11時)  
震源は、主に新岳火口直下のごく浅い領域に分布しています。

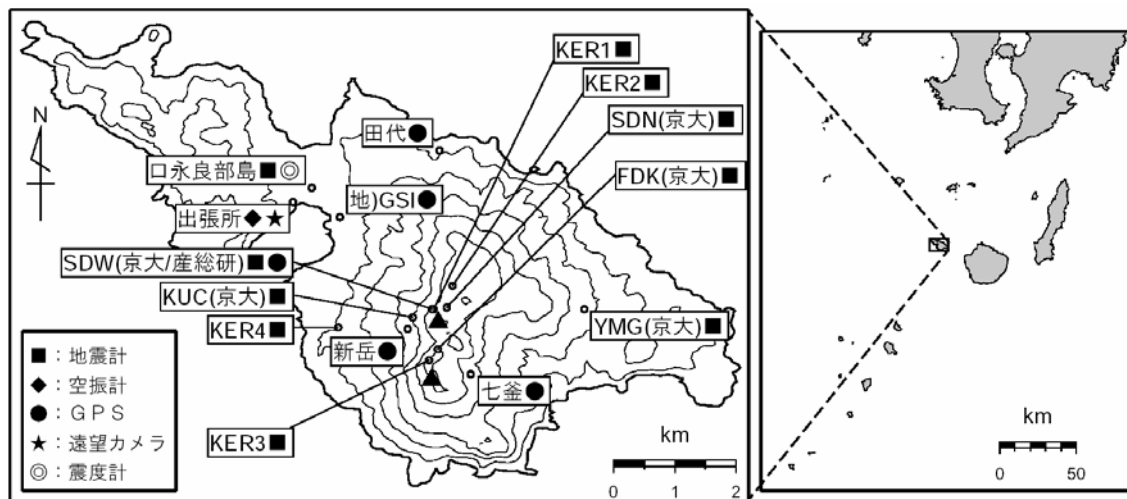


図3 口永良部島 観測点配置図

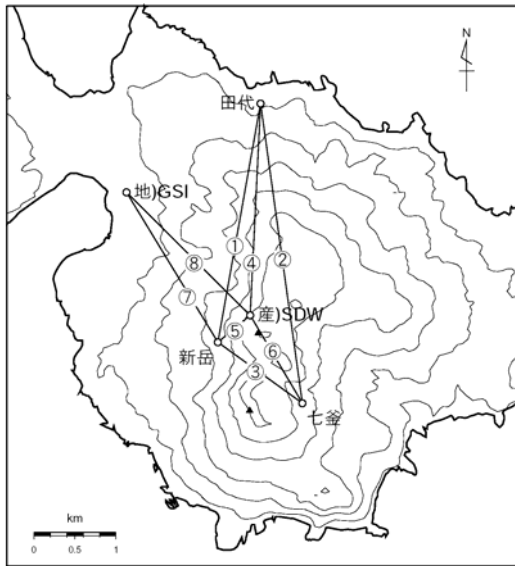


図 4 口永良部島 GPS 連続観測基線図

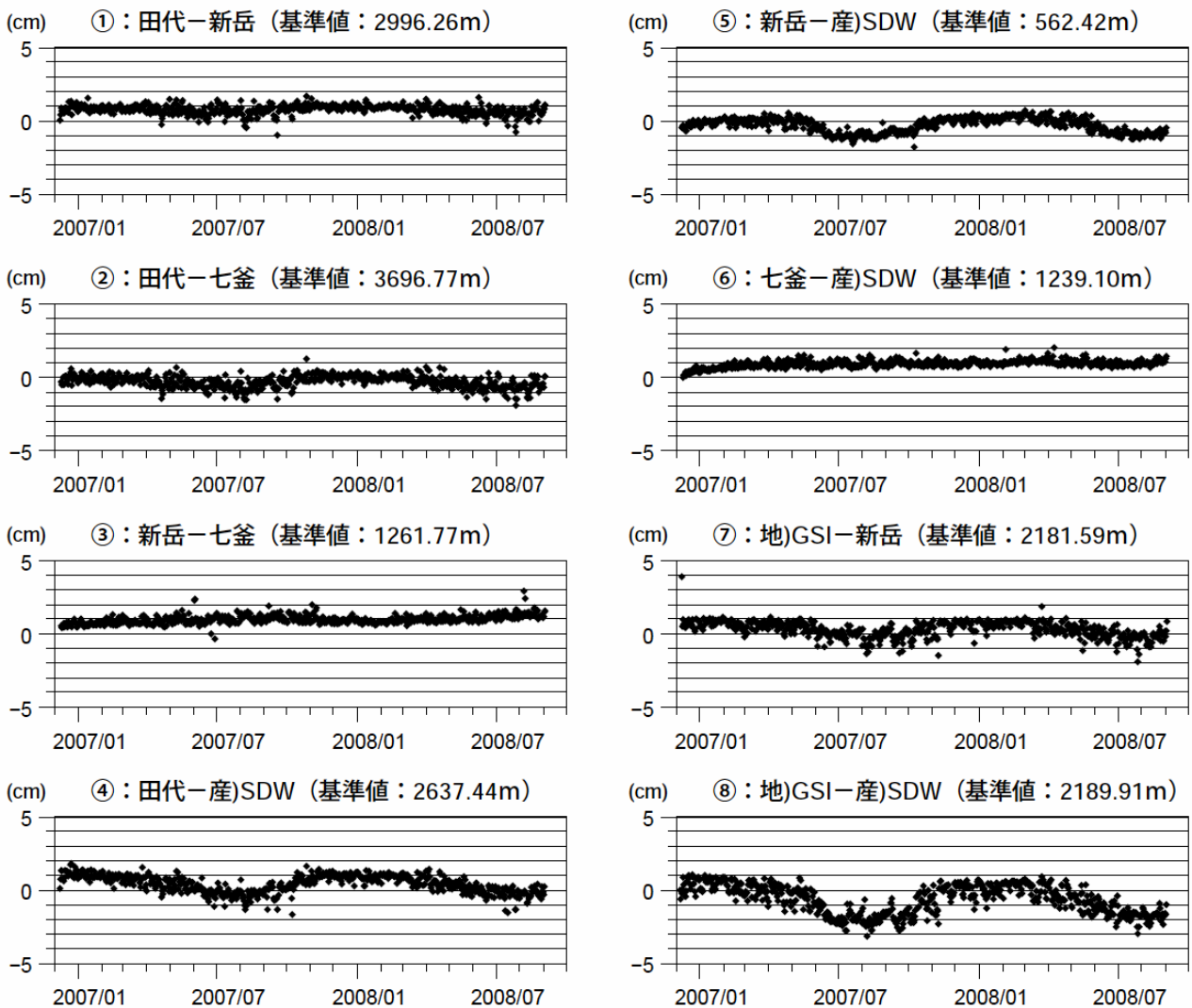


図 5 口永良部島 GPS 連続観測による基線長変化(2006 年 12 月 8 日～2008 年 9 月 4 日)  
火山活動に起因するとみられる大きな変化は観測されていません。この基線は図 5 の ~  
に対応しています。